お家にいなくちゃいけなくなった小さなノーム

2020年3月　スーザン　ペロー著

この話は、現在のコロナウィルス　パンデミックの中、自宅待機を強いられたり、あるいは学校には通学できても集会、行事、催し物などへの参加が制限されてしまっている３歳から７歳の幼い子ども向けに書かれた物です。最後にある歌の部分は、教師、親が子どもたちと一緒に自由に歌詞を作ることができるようにしてあります。状況に応じ、例えば木の母さんというくだりのところでは、木の父さん、木のおばあさん、木のおじいさんにするであるとか、ノームの学校という部分を省いたり、主人公そのものを変える、つまりノームの代わりにネズミが家にいなくてはいけなくなったとか、小鳥が巣の中でじっと休まなくてはいけなくなったなどと変更しても構いません。

注）３月に書き始めてから、既に２５か国後に翻訳されていますー詳細はリンクにてご確認ください。<http://susanperrow.com/stories>

リンクからは、他のパンデミックのために書かれた大人向け、子ども向けの話も無料にてダウンロードが可能です。但し、いかなるソーシャルメディアの本文部分にも、著者の話を転載することは固く禁じます。特に翻訳版は、グーグル翻訳で内容が異なってしまうことがあるため、共有する場合は上のリンクを直接貼り付けて行うようにお願いします。

小さなノームは困ってしまいました。

どうしてお家にいなくちゃいけないの？

小さなノームは外を歩き回るのが大好きだって、誰もが知ってるはずなのに！

小さなノームは学校に行けなくなりました。森の中でお友達と遊ぶこともできなくなりました。そして、お友達も遊びに来てくれなくなりました。

小さなノームは木の根っこにある自分のお家にいなくてはいけなくなってしまったのです。

でも、少なくとも石や木の根っこの隙間を通して窓から外を見ることができます。小さなノームはたくさん見るものがあることにびっくりしました。ちっちゃなアリが近くを通り過ぎて行ったり、まぶしい色のタマムシが落ち葉の上を這い登ったり、ウサギがぴょんぴょん巣から出たり入ったり。

でも、こんなにも沢山見るものがあっても、小さなノームは段々いてもたってもいられなくなりました。どうして、ずっとお家に閉じこもってなきゃいけないんだろう？どうして外を歩き回ったらいけないんだろう？

そんな時、木の母さんがこう囁いたのです。

“色々なことが今までとは変わってしまったの。でもね、信じてごらん。そのうち自由に動き回れるときがきっと来るから。どうか信じてちょうだい。”

小さなノームは木の母さんがいうことはいつも正しいと知っていました。

木の母さんがいうことは、とってもえらいことなんだって。

だって、木の母さんはこの森ぜーんぶのことを知り尽くしているんですもの。

木の母さんは、たくさんのことを知っていました。鳥や風は木の母さんの友達でしたし、毎日色々なこと、世界中のあちらこちらで起こっていることを知らせに来てくれました。

鳥が来ると、小さなノームはすぐ気付きます。だって、木の母さんのてっぺんの方に留まってさえずっているのが聞こえるんですもの。

風が吹くと、小さなノームはすぐ気付きます。だって、枝がゆらゆらと揺れるのが見えるんですもの。時々、風が強すぎるときは窓を閉めて落ち葉が入ってきたり、ホコリが立たないようにしないといけませんが。

毎日、毎日、木の母さんは小さなノームにささやき続けました。

“色々なことが今までとは変わってしまったの。でもね、信じてごらん。そのうち自由に動き回れるときがきっと来るから。どうか信じてちょうだい。”

そう、小さなノームは信じるしかありませんでした。小さなノームはじっと待つしかありませんでした。そのうち、石や木の根っこの間にある自分の家から外に出られるようになるとわかっていました。そのうち、また素晴らしい森の中をあちこち歩き回ることができるようになるんだってわかっていました。

そうして待っている間、小さなノームは木の根っこにある小さな心地よい自分の家の中にも、沢山できることがあるんだと気づいてびっくりしました。

*踊ったり、*

*歌ったり、*

*お絵かきだってできるんだ*

*でんぐり返しだってできるよ*

*踊ったり、*

*歌ったり、*

*お掃除、お料理できるんだ*

*じっと絵本も読めるよ*

*踊ったり、*

*歌ったり、*

*―――――――だってできるんだ*

*―――――だってできるよ*

*踊ったり*

*歌ったり*

*―――――――だってできるんだ*

*―――――――だってできるよ*

注：）今回のお話は“反射”構造をとっています。これは、幼い子どもたちに直接状況を伝えるには刺激が強すぎる場合、状況を反映させイメージ描写しながら説明するということです。現状では、どのくらいの期間　ソーシャルディスタンシング　が必要になるか不明なため具体的な時間には触れていません。今ある現状の中で、子どもたちが家の中でできることを見つけ、楽しむことができるようになれば幸いです。

“ストーリーによる治癒効果”についてあまり馴染みがない方のため説明を加えさせていただくと、ストーリーは様々な喪失あるいは、困難な状況によって生じる感情をうまく整理する手助けをしてくれます。真実を頭ごなしに受け付けないのではなく、受け入れること、またイメージ描写することによって、日々の生活の中に少しずつ現実を取り入れていくことができるようになります。特に小さいこどもにとっては大きい手助けとなりうるのです。

この話は著者の次作‘Stories to Light the Night: A Grief and Loss Collection for Children, Families and Communities’ (イギリス、ホーソンプレスから2020年後半に出版予定)の’loss of health and well-being‘という項目に含まれています。この本には、大切な人や場所を失った場合、家族の絆が壊れた場合、ペットの喪失、病気、信頼喪失など、様々な状況に応じた８０話以上の物語が含まれています。